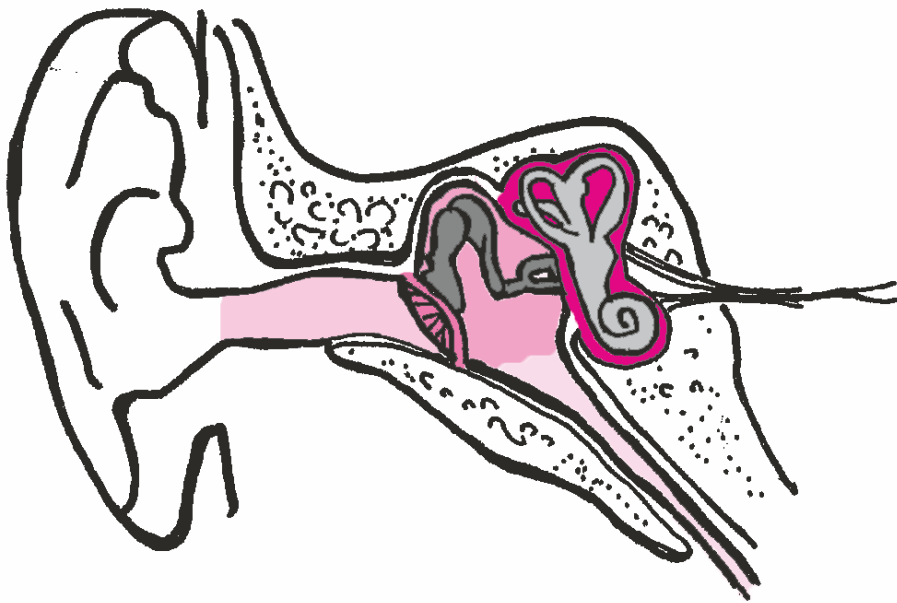


聴覚・平衡覚器

- () によって外耳と中耳（鼓室）が隔てられている。
- 中耳と上咽頭の間は、約 2.5cm の () で連絡する。
- 外耳は () に働く。
- 中耳には鼓膜側から () → () → () の3つの () があり、音の振動を () する働きがある。
- ツチ骨には、三叉神経の枝の下顎神経支配である () 筋が、アブミ骨には顔面神経支配の () 筋が付着し、大きな音に対して収縮し、耳小骨の動きを () し、音を弱める働きがある。
- 側頭骨の () 内にある内耳に、() を感知する () と、平衡覚を感知する () および () がある。
- 第Ⅷ脳神経の内耳（聴）神経は、() 神経と () 神経からなる。
- 音（聴覚）を感知するのは () にある有毛細胞を持つ () という受容器であり、ここから () 神経が出る。
- コルチラセン器は渦巻状になっており、部位によって感知する () が異なる。
- 入口の蝸牛底では 20,000Hz の () を、蝸牛頂では 100Hz 以下の () を感知する。
- 前庭器は () の受容器である。
- 前庭器は、() を持つため () 器ともいわれる。
- 水平加速度を () が、垂直加速度を () がそれぞれ感知する。
- 回転加速度の受容器は直交する3つの () である。
- 前庭器および半規管から () 神経が出る。



聴覚・平衡覚器

- (鼓膜) によって外耳と中耳 (鼓室) が隔てられている。
- 中耳と上咽頭の間は、約 2.5cm の (耳管) で連絡する。
- 外耳は (集音) に働く。
- 中耳には鼓膜側から (ツチ骨) → (キヌタ骨) → (アブミ骨) の3つの (耳小骨) があり、音の振動を (増幅) する働きがある。
- ツチ骨には、三叉神経の枝の下顎神経支配である (鼓膜張) 筋が、アブミ骨には顔面神経支配の (アブミ骨) 筋が付着し、大きな音に対して収縮し、耳小骨の動きを (抑制) し、音を弱める働きがある。
- 側頭骨の (錐体部) 内にある内耳に、(聴覚) を感知する (蝸牛) と、平衡覚を感知する (半規管) および (前庭器) がある。
- 第Ⅷ脳神経の内耳 (聴) 神経は、(蝸牛) 神経と (前庭) 神経からなる。
- 音 (聴覚) を感知するのは (蝸牛) にある有毛細胞を持つ (コルチらせん器) という受容器であり、ここから (蝸牛) 神経が出る。
- コルチらせん器は渦巻状になっており、部位によって感知する (音の高さ (周波数)) が異なる。
- 入口の蝸牛底では 20,000Hz の (高い音) を、蝸牛頂では 100Hz 以下の (低い音) を感知する。
- 前庭器は (直線加速度) の受容器である。
- 前庭器は、(耳石 (平衡砂)) を持つため (耳石) 器ともいわれる。
- 水平加速度を (卵形嚢) が、垂直加速度を (球形嚢) がそれぞれ感知する。
- 回転加速度の受容器は直交する3つの (半規管) である。
- 前庭器および半規管から (前庭) 神経が出る。

